

(様式1・小学校用①)

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立氷川小学校

(平成31年2月13日作成)

1 学校教育目標	
「学びあい 助けあって 自分を高める」	
目指す児童像 ○ひ ひかる汗 (体) 高めあう子 ○か 耀く瞳 (徳) 高めあう子 ○わ わかる喜び (知) 学びあう子	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
○子どもたちが伸びる学校 ・基礎・基本の定着、授業時間の確保 ・一人一人のコミュニケーション能力の向上 ○子どもが生き生きとする学校 ・あいさつあふれる明るい学校づくり ・保護者・地域と共に歩む学校づくり ○幼保小中を一貫した教育の推進 ・谷塚中学校区一貫教育の強化・推進	成果 ○いじめのない、あっても早期に解決できる学校づくりの構築 ○幼保小中一貫教育の基礎づくり 課題 ●道徳教育のさらなる推進と研究 ●児童一人一人の基礎体力の向上

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○教職員一人一人が学校教育目標を体現するように、共に学び合い、助け合い、自分を高めることができた。 ●教職員が子ども一人一人とより深く向き合って、生きる力を育むことができるような時間の確保と指導力の向上を目指していく。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○今年度より、草加市教育委員会より委嘱を受けて「外国語活動・外国語科」に係わる研究に取り組み、授業の流れの確立やALTとの連携、学習環境の整備に努めることができた。 ●どの教員でもできる、より分かりやすい授業スタイルの確立、目指す児童像を実現するための手立ての再構築が必要である。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○昨年度の反省を踏まえた保健、安全計画を立案し、円滑に実行することができた。また、安全点検を毎月確実に実施し、その都度修繕や補修を行い、安全な環境維持に努めることができた。 ●あらゆる場面を想定した避難訓練や不審者対応訓練を計画し、教職員の共通理解、共通行動力を高める必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報の取り扱いについて、倫理確立委員会を中心に教職員全体に周知徹底を図ることができた。 ●児童写真使用の有無や作品の貸借、情報の管理方法について、より詳細な内規を検討して管理していく。

⑤地域との連携 開かれた学校	・ 学校情報の発信 ・ 学校公開の実施 ・ 学校評議員制度の活用 ・ 地域、校種間連携 ・ PTA活動の活性化	B	○学校行事だけでなく、朝会や集会、学年行事等も積極的に公開することができた。また、ホームページや学校だよりを中心に本校児童のよさを発信することができた。 ●地域やPTA保護者とのより密に連携、協力し、より質の高い活動を実現し、より信頼される学校づくりを行っていききたい。
⑥幼保小中を一貫した教育	・ 目指す子ども像の実現に向けた取組 ・ 教育課程の編成 ・ 一貫教育推進のための組織づくり	B	○幼保小中合同研修会を実施し、目指す児童の像を共有し、その実現に向けた各校の取組について考えを深めることができた。 ●小中一貫標準カリキュラムを生かして本校の教育課程をより充実させていききたい。

(様式1・小学校用②)

草加市立氷川小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・ 教育課程の編成、実施 ・ 教育計画の作成 ・ 教育活動の評価 ・ 目標、方針の周知 ・ 授業時数の配当、確保	B	○多くの教科において授業時数を十分に確保して学習指導を行うことができた。 ○チャレンジタイム(昼休みと第5校時の間に実施)を日課表に取り入れ、継続して基礎学力の向上に努めた成果が表れている。 ●朝時間とチャレンジタイムをより有効に活用できるように工夫していききたい。
	②教科指導	・ 指導計画の立案 ・ わかる授業づくり ・ 指導方法の工夫と改善 ・ 評価、評定の工夫 ・ 外部人材の活用	A	○めあてや課題とまとめをしっかりと正対させて書くことを意識して授業を行ったことで、児童にとって分かりやすい授業を展開することができた。 ○デジタル教科書やタブレットパソコン等の視聴覚機器を有効に活用し、分かりやすい授業を展開することができた。
	③道徳教育	・ 全体計画の作成 ・ 各教科との関連 ・ 道徳実践力の育成 ・ 家庭、地域社会との連携 ・ いのちの教育の推進	B	○道徳の教科化に伴い、外部講師を招いた研修会で評価の在り方について理解を深め、児童の考えの変容や思いなどを毎回書き留めるファイルやノートを準備して活用できるようにした。 ●授業中、児童と対話しながらどのようにねらいに迫っていくか等、授業の進め方については今後も研修等で学んでいきたい。
	④外国語活動	・ 指導計画の立案 ・ 指導方法の工夫と改善 ・ 評価、評定の工夫 ・ 各教科、道徳教育との関連 ・ 中学校との連携	A	○授業の流れを確立し、ALTと連携しながら学習を進めることができた。 ○外国語活動を通して、コミュニケーションの楽しさを児童に実感してもらう機会を与えることができた。 ○チャレンジタイムを使って、全学年で外国語に親しむ活動を実施することができた。 ○中学校教員とより密に連携して、より質の高い授業を展開していくことが大切である。

⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	A	○前年度の反省を踏まえた上で、年間計画を立案し、円滑に遂行することができた。 ○児童会主体で取り組む活動が少しずつ増え、学校をより良くしていこうと考える児童が増えている。 ●今年度以上に、児童が主体となった活動を増やしていきたい。
⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫	B	○市内の教育資源を活用したり、学校近隣の人的、物的資源を活用したりした授業を展開することができた。 ●「草加を学ぶ」教育のより一層の充実を図る。
⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○不登校対応については、学校全体で組織的に対応することができた。 ○学校全体で共通理解を図り、よい子のきまりや生活目標に対する取組等を共通で取り組むことができた。 ●いじめ問題を中心に、より積極的な生徒指導を行い、未然防止に努めていきたい。
⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	B	○年間計画に基づき、中学校と密に連携して行事を遂行することができた。 ●総合的な学習の時間や特別活動を中心に、キャリア教育の一層の充実を図っていきたい。
⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○通常学級との授業交流を毎日活発に行うことができた。 ○いつでも特別な支援が必要かどうか、気になる児童について相談ができる校内支援体制が整っている。
⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	B	○長期休業中に本の貸し出しを実施するなど、読書により親しむ活動の充実に努めた。 ●調べ学習の際に、学校司書をより有効に活用していきたい。
⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○タブレットパソコンを活用して、分かりやすい授業を展開することができた。 ●ICTサポーターや支援員などの人的資源を計画的に配置・活用して、情報教育を推進していきたい。
⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○研修を実施して、全教職員が人権意識を再確認するとともに、タイムリーな人権感覚を身に付けることができた。 ●社会や道徳など、児童自身が人権に対する考えを深める機会を意図的に設定して実践していきたい。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	基礎学力の定着	・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・家庭学習の充実	B	○めあてや課題の提示および課題に正対したまとめを授業の中で実践したことで、児童の主体的な学びにつなげることができた。 ○第5校時前にチャレンジタイムを設定し、学年の実態に合わせた学習教材（国語・算数）に取り組み、基礎学力の向上につなげることができた。 ○中学校区内で家庭学習の約束や授業の約束を統一し、取り組んだ。 ○全国学力学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査、草加市学力学習状況調査において市、県、全国の平均を上回ることができた。
	コミュニケーション力の育成	・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・指導方法の工夫と改善	A	○国語の研修で深めた「伝え合う」活動（伝え合いたいむ）を、各教科の授業の中で実践、継続し、互いの考えを深めたり、広げたりすることができた。 ○全学年、週1回チャレンジタイムの中でE-Time（English-Time）を設定し、外国語に慣れ親しみ、コミュニケーションの楽しさを味わうことができた。 ○道徳の教科化に伴い、授業の中心に多様な話し合い活動を据えて、道徳的心情の育成に努めている。
	生徒指導・教育相談の充実	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・校内支援体制の整備	B	○生徒指導上の問題や不登校問題に対する初期対応を組織的にを行い、教職員が共通理解のもと解決に努めることができた。 ○サポート教室が校内に設置されているメリットを生かして、迅速かつ専門的な相談および支援を受ける体制が整っている。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 本年度より3年間、市教委より「外国語活動・外国語科」に関わる研究委嘱を受けて、目指す児童像を実現するために本校における外国語活動の指導法を確立することができた。また、本年度1年間、文部科学省委託「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」研修協力校として、1年間の成果を研究発表として開催することができた。
- 本年度、谷塚中学校区に所属する幼稚園、保育園、小・中学校の教職員による合同研修会を開催した。中学校区の目指す児童像の共有とその実現に向けた各校の取組の検討や、中学校教員による教科別模擬授業の実践等、充実した研修を行い、共通した取組も行うことができた。
- 毎学期各学級であいさつ名人を選出し、学校全体で表彰する取組を行い、登下校および校内において児童自らあいさつできる子が多くなってきた。
- 教職員の共通理解・共通行動のもと、無言清掃に徹底して取り組んだ結果、全学年を通じて多くの児童が落ち着いて清掃に取り組むことができるようになった。
- 児童会活動がとても活発で、児童が中心となって取り組んでいるところがよい。たてわり遊びや、お誕生給食等を通して異学年交流が深まっている。
- 各学年、落ち着いて授業を受けている様子や、元気にあいさつしている様子がとても良いと感じた。

6 次年度の改善策

- ・全国・県・市学力・学習状況調査の結果を学年および個人毎により詳細に分析し、普段の授業やチャレンジタイムの時間に反映できるようにする。
- ・学校司書が1か月12日間配置されているので、読み聞かせなどを休み時間に行うなど、効果的に活用できるとよい。
- ・児童にとってより分かりやすい授業を展開する手段として、電子黒板やタブレット端末等を各担任等が効果的に使用できることが望ましい。外部講師を招いた研修やICTサポータの方々の計画的な配置を推進していきたい。
- ・中学校との乗り入れ授業を一層充実させ、中学校への円滑な接続を推進していきたい。
- ・アレルギー対応について、シュミレーション訓練が必要かと考える。夏の研修等で実施できるとよい。
- ・児童個々の体力向上に向けて、本年度課題として投力の向上に取り組んできたことを来年度も継続して取り組み、新体力テストの結果を県平均に近づけていきたい。
- ・家庭内ネグレクトによる子どもの命さえ危険な状況がある。学校でも子どもの状況を詳しく調べておく必要がある。
- ・地域とのコミュニティーをより良くする。